

別紙

「四街道市まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に係る四街道市市民参加条例に基づく審議会等手続きにおける委員意見の概要と意見に対する市の考え方

第1回四街道市まち・ひと・しごと創生推進協議会

日時：平成27年8月24日（月）午前10時00分～午前11時45分

- 議事：（1）四街道市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
- ・まち・ひと・しごと創生法の概要
 - ・四街道市まち・ひと・しごと創生法の概要
 - ・地方創生の取組経過
- （2）その他

| | 意見の概要 | 意見に対する市の考え方 |
|---|--|---|
| 1 | 全国他自治体と四街道市では、状況が異なる。定住者、移住者などの人口を増やしていく考え方や、来訪者などといった交流人口を増やしていく考え方があると思うが、このような人口の流動性の観点が人口ビジョンに必要ではないか。 | 平成26年度スタートの総合計画においては、将来的な人口減少を踏まえ、若い世代の移住、定住による人口の維持及び交流人口の増加が必要であるとの認識から、市を対外的にアピールし、認知度を高めるシティセールスを行っている。ご指摘の件については、人口ビジョンに交流人口に関する項目を加えたい。 |
| 2 | データ分析ばかりに頼るのではなく、地方創生のアイデアを市民の方から頂いたように住民の意見も反映して作成して頂きたい。 | 地方創生に関するアイデア募集を実施したところ20件のアイデアをいただいた。本協議会においても様々なアイデアをいただきたい。なお、人口ビジョン及び総合戦略案作成後、パブリックコメントを実施し、市民の方々の意見を伺う予定である。 |
| 3 | 子育て期間中の母親の就労や習い事など、生活のパターンを考えた時に選択肢が少ない。市内で働こうと思っても、自分の希望の時間、就労場所が少ない。 | 総合戦略作成の際の参考とする。 |
| 4 | 四街道市と周りの市町を比較した場合、お金を使う場所は千葉市、佐倉市、酒々井町となっている。定住人口の増加ばかりではなく、総合的な魅力をつくり、市外から人を呼び込む必要がある。 | 総合戦略作成の際の参考とする。 |

| | | |
|---|--|---|
| 5 | 行政と市民とで温度差がある。老朽化により公園遊具が撤去されたが、その後、予算がないとのことで設置されていないところがある。中央公園においては、遊具が新設されたが中途半端だと感じる。予算がないことも理解できるが、思いきって何かやらないと何も始まらない。 | 総合戦略作成の際の参考とする。 |
| 6 | 行政側からこうしてほしいということばかりではなく、住んでいる市民の方々が環境美化などの自治会活動や祭りに参加するなど、住んでいる方々の思いを引き出すことが重要である。 | 総合戦略作成の際の参考とする。 |
| 7 | 市民活動が活発である。ボランティアや様々な団体、さらには環境に詳しい方の活動など小さな活動も多くある。今後、これらの活動に興味のない方々に対して情報発信を行っていくのか。また、小さな活動が横の繋がりを持ち新たな魅力を創出していくのか、何かしらのバックアップが必要。 | 総合戦略作成の際の参考とする。 |
| 8 | 四街道市の人口 87,000 人は、世代別でどのような割合なのか。 | 団塊の世代の 65 から 69 歳、その子どもの世代である 40 から 44 歳の人口割合が高い。 |
| 9 | 予算の関係もあるかと思うが、地方創生では目立ったことをやらないと魅力あるまちづくりにはつながらない。シティセールス課を立ち上げて市をアピールしていこうという体制となったため、積極的な事業を展開していただきたい。 | 総合戦略作成の際の参考とする。 |

第2回四街道市まち・ひと・しごと創生推進協議会

日時：平成27年11月19日（木）午前10時00分～午前11時45分

- 議事：（1）四街道市人口ビジョン（案）について
 （2）四街道市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について
 （3）その他

| | 意見の概要 | 意見に対する市の考え方 |
|---|---|--|
| 1 | 合計特殊出生率については、平成24年～26年に0.1ポイント程度上昇しているが、何か特殊な要因があったのか。 | 住宅開発の進むもねの里等において、若い世代の転入・出産等が適齢期を迎えているという点が要因の1つでもある。 |
| 2 | 遊休地や団地開発が可能な土地がどの程度残されているのか。今後の土地利用が、どのような方針であるのか。 四街道市の人口が増加した要因は大型団地の開発が大きいと考える。四街道駅周辺の核となる部分や地域核とされている物井などにおいて、個人の土地として制約のない場所があれば開発を進めることができるのではないかと考える。 | 総合計画を策定する際、土地利用の状況を把握するための調査を実施した。その調査によると、本市は、市街化区域内において低・未利用地があることから、新たな開発を行うのではなく、この低・未利用地の整備を進めていくことを基本としている。なお、この低・未利用地については、駐車場や空き地、造成中の土地も含まれるので、成台中等の土地が残されている。今後は、シティセールス等の施策を一層進めることで、低・未利用地などの住宅建設を促進したいと考えている。 |
| 3 | 人口ビジョンでの通学者については、学校の数に左右される。また、就業に関しては事業所が数に左右されるが、他の市よりも少ないなど、決定的な要因がある。今後、人口ビジョンで示されている統計を見比べながら、人の流れを見ていくことが重要。 | 今後も引き続き統計情報を活用し、人の流れを注視していく。 |
| 4 | 人口ビジョン43ページの「目指すべき将来の方向」「（2）結婚・出産・子育ての希望をかなえる」においては、5行で終わっており、具体性に欠けていると感じる。もう少し具体性を持たせた方が良い。 | 指摘箇所に対し、文章に具体性を加える。 |
| 5 | 総合戦略11ページの「主な取組」に記載された認知度の向上は、具体的にどのようなものをアピールしていく予定か。また、下段に記載された「支援を検討する」というのは、今後、本協議会で検討していくものなのか。 | 「主な取組」については、総合計画において取り組む事業の他に地方創生の交付金事業並びに新たに取り組む事業を記載している。今後、国の財政支援を受けるためには、総合戦略に事業を位置づけておく必要がある。そのため、表記としては、多くの事業が交付金の対象となるよう幅広い表現とした。なお、記載されている「るるぶ四街道市」 |

| | | |
|----|---|---|
| | | は現在作成しているところなので、完成次第、お示ししたい。支援を検討するという点については、市で中心となり進めたいと考えている。 |
| 6 | 本市は、特徴が少なく知名度が低い。今後もこれまでの施策を行うなど、強みを伸ばしていく計画を打ち出していけば、内容がもっと良くなるのではないか。 | 本市の強みについては、総合戦略の2ページに「(5) みんなで地域づくりの視点」を記載し、この視点に基づいて地方創生を進めていくものとしているが、ご指摘を受け、見直しを検討する。 |
| 7 | 強みを伸ばしていくというのは、地方創生の基本であると考えてるので、より具体的な「強みがある」ことを記載してまちづくりを進めてほしい。 | |
| 8 | 総合戦略は、長期的な計画なので継続したい部分、効果の出ている部分をもっと具体的に示すべき。市の中で課題や問題が幅広い世代にあり、そのニーズに答えようとした結果が資料に並んでいて、どれも必要なものだと思うが、長期的な戦略として考えると市はどのような方向に行きたいのかが不明確であるように感じる。キャッチフレーズではないが、全体像が「知ってもらおう！四街道」など漠然としたものではなく、戦略全体を示すような、市の強みやこういう市になりたいという意思が表れるキャッチフレーズがあると、市民も親しみやすい。 | 総合戦略においては、基本目標以下、親しみやすい言葉で記載しているところである。 |
| 9 | 市民の方が事業に参加するなど、関心を持っていただきたい。ただ住みやすいだけではなく、子供たちにも継承してほしいとか、地域での祭り、学校など様々な機会を通じて巻き込んでいく必要がある。 | ご指摘の件については、具体的な施策ふるさと意識の醸成のなかで同様の記述を記載している。 |
| 10 | 様々な施策を行うためには、財源の確保が必要となる。地方創生は、国から交付金があるとの説明があったが、この交付金は5年間交付され続けるものなのか。また、どの自治体も同じような申請がなされた場合、県は差別化を図っているのかなどを知りたい。もし競争がなされる場合、他の市がどのような施策を練っているかを調査した上で対策をとる必要がある。 | 地方創生先行型交付金については、自治体の人口割合等を要件として全国の自治体に交付されている。本市は、平成26年度補正予算は7事業を申請している。また、平成27年度は、地方創生先行型の上乗せ交付金として1つの事業が採択された。来年度は新型交付金の創設が予定されているが、交付額は、事業費の1/2補助と伺っている。それ以降どのような交付金が創設されるのかは現時点、国から示されていないため、今後も国からの情報を注視していく。 なお、このたび総合戦略を作成するに当たり、 |

| | | |
|----|---|--|
| | | 先行団体の取組事例や交付金事業の先駆的な事業を調査し、参考としたところである。 |
| 11 | 平成 31 年までの施策を総合戦略で作成し、PDCA サイクルにより進行管理を行うとのことだが、それは毎年実施するのか。それとも中間年度に行うのか。 | 毎年度実施し、状況を把握する予定である。 |
| 12 | 四街道市に住んでいる外国人について、姉妹都市との関係はうまくいっているのか。近年、アフガニスタンやその他、住民も多様性が増している。外国人が多いというのも本市の特徴であるので、住民の方々と、日本人との関係がうまくいくような何かしらの対策がほしい。また総合戦略に外国人住民についての文言がほしい。 | 総合計画前期基本計画において、国際化への対応を位置づけ、その推進を図っているところである。まち・ひと・しごと創生は、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけることを目的とした法律であることから、特にこれらに即した施策を中心としている。国際化への対応については、今後も前期基本計画に基づき推進していくこととしたい。 |

第3回四街道市まち・ひと・しごと創生推進協議会

日時：平成28年2月15日（月）午前10時30分～午前11時45分

議事：（1）四街道市人口ビジョン及び四街道市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
（2）その他

| | 意見の概要 | 意見に対する市の考え方 |
|---|---|---|
| 1 | 総合戦略10ページ、目標値「合計特殊出生率」現状値の1.46より増加するということを掲げているが、目標値としてはちょっと弱いと感じる。内部でどのような議論がなされたのか、また事務局においては、このくらいまで上昇するのではないかなどの数字を持っていたら教えてほしい。 | 市の合計特殊出生率は、平成26年時点で1.46となっている。この数値は、国平均の数値や千葉県平均の数値よりも高く、県内においても上から4番目という高い順位。現状値より増加という目標は弱いと感じる部分はあるが、人口ビジョンにおいて、2030年には合計特殊出生率が1.8となるよう目標を掲げており、今回の総合戦略においては、その目標に向けた最初の期間であることから、総合戦略終了年度となる2023年は、まずは現状値よりも高い数値となることを目標に掲げた。 |
| 2 | KPIとして設定する際は、評価に耐えうるものを設定すべき、仮に設定するにしても、概ねどの水準を目標とするのかの目安が必要。この目標値で評価すると、甘目の評価となる恐れがあるので、実際に市が考えている数値と、実際の数値がどうであったか、数字に基づき評価をしていくことが重要である。評価については、このような視点に配慮してほしい。 | 進行管理の際の参考とする。 |
| 3 | 地方創生先行型事業となる三世代同居・近居支援事業は、交付金としてかなり額を使用している。これに対して、どの程度効果が見込めるのか。新築、改築に補助金を出すものとされているが、費用対効果が少ないのではないかと感じる。 | ご指摘の事業は、本年度スタートした事業でもある。委員の危惧される点も含めて、今後、当該事業の効果等を検証したい。 |
| 4 | 地方創生先行型で実施した7事業については、平成28年度以降も続けていくのか。または先行型の発展型として新たな事業を検討しているのか、また、その場合どのように新型交付金につなげていくのか。 | 地方創生先行型の7事業については、今後も継続して進めたいと考える事業があるが、今後、これらの事業が新型交付金の対象となり得るかは、来年度、その詳細が示されてからとなる。なお、効果の高い事業については、交付金の有無に関わらず実施していきたいと考える。 |
| 5 | 11ページまち・ひと・しごと創生推進事業においては、KPIが設定されていない、しなくてもよいのか。 | まち・ひと・しごと創生推進事業のKPIの設定については、すべての地方公共団体が総合戦略等を策定するものとなっていることがあることと、 |

| | | |
|---|--------------------------------------|---|
| | | 計画の策定であることから、国からはK P I の設定等は求められていないところである。 |
| 6 | 13 ページの着地型旅行商品開発というのは、具体的にはどのようなことか。 | 着地型旅行商品は、通常、旅行については、旅行代理店やガイドが何処へ行こうかとプランを設定するが、今回、示している着地型というのは、旅行目的地側の四街道市が旅行商品を企画、発信し、旅行者を呼び込むものである。 |